

# プロジェクトリーダー：金城学院大学 看護学部 瀨瀨ゆき助教

## 事業実績調書

(1) プロジェクト名	AYA世代女性の子宮頸がんリテラシー向上をめざす地域連携プロジェクト
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	<p><b>1. 昨年度実施した調査のデータ解析, 論文化, 投稿</b></p> <p>「行政機関が発信した受診勧奨メッセージの認知率と訴求性の評価の成果」をまとめ、瀬戸市への提供と学会発表を行った。</p> <p><b>1) 昨年度実施した調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>アンケート調査/瀬戸市在住 20~21 歳の女性への調査 (①), A 大学の学生への調査 (②)</li><li>ヒアリング調査/瀬戸市在住外国籍女性への調査 (③)</li></ul> <p><b>2) 成果</b></p> <p><b>① 瀬戸市在住 20~21 歳の女性への調査結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>対象者/瀬戸市子宮頸がん無料クーポン券受診勧奨者</li><li>実施日/2023 年 8 月 9 日~8 月 31 日, (再勧奨) 2023 年 10 月 4 日~11 月 30 日</li><li>回答数/15 件 (回答率 2.2%, (再勧奨) 回答率 0.34%)</li><li>単純集計の結果を表にまとめ、瀬戸市保健師に説明した</li></ul> <p><b>② A 大学学生への調査結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>実施日/2023 年 10 月 10 日~10 月 18 日</li><li>回答数/207 件 (回収率 19.3%), 分析対象者: 194 名</li><li>評価対象/厚生労働省作成リーフレット (以下, 国のリーフレット) の一部抜粋 (資料1 以下, 国の案内)</li><li>分析/①子宮頸がん検診対象年齢前 (18-19 歳) と対象年齢 (20-21 歳) の比較と②HPV ワクチン接種の有無で比較を行った</li></ul> <p><b>【結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>18-19 歳 (子宮頸がん検診対象年齢前) と 20-21 歳 (子宮頸がん検診対象年齢) では, 20-21 歳の方が, 性経験率が高かった。</li><li>HPV ワクチン接種群と未接種・接種歴不明群とでは, 接種群の方が, 「過去 6 か月間に友人や知り合いと子宮頸がんについて話した」「子宮頸がん検診歴あり」「子宮頸がんの原因となるウイルスは性交時に感染することを知っている」と回答する割合が高かった。</li><li>国のリーフレットの認知について, 18-19 歳と 20-21 歳とでは違いはみられなかったが, HPV ワクチン接種歴の比較においては, 接種群の方が「見たことがある」と回答する割合が高かった。</li><li>国の案内 (資料1) を読む前と読んだ後での子宮頸がん検診受診意図は, 18-19 歳と 20-21 歳において読んだ後の方が「検診受診意図あり」の割合が高かった。一方で, HPV ワクチン接種歴の比較においては, 未接種・接種不明群では, 読んだ後の方が「検診受診意図あり」の割合が高かったが, 接種群では読む前と読んだ後での有意な違いはみられなかった。(詳細は「参考資料」を参照)</li></ul> <p><b>③ 瀬戸市外国籍女性への調査結果</b></p> <p>まちづくり協働課の協力を得て, 4名の外国籍女性: スリランカ人 2名 (20代, 30代), ベトナム人 (20代), ネパール人 (20代) に子宮頸がんの認識, 行政機関が提供する健康情報への理解についてのヒアリング調査を行った。「行政からのお知らせ (健康情報)」をどのように受け取り, どのように感じているかのインタビュー調査とした。居住地市町村からの健康支援に関する文書 (住所地の市町村から健康情報に関する通知 (個別通知)) は全員が受け取ったことがあり, 文書は「漢字にルビがふってある」ものを受け取っていた。内容については, 「説明文は読むが, わからないのでアップルの翻訳を使用する。時々翻訳が変な表現になるときは, わからないので周りに聞く人がいたら聞く (配偶者, 家族など)」と回答された。しかし「聞く人がいなければそのままになってしまう」という語りも聞かれた。</p>



●資料1：評価対象

## 2. 大学生、瀬戸市保健師、教員（研究者）が参加する検討会（④）の実施

大学生の子宮頸がんの認識、国・瀬戸市の子宮頸がん検診案内に対する認識を見出すこと、大学生の意見を聞いて、保健師がどのように感じたかを明らかにするために検討会（意見交換）を試みた。

### ④ 検討会の概要

- 1) 参加者/A大学学生（5名）、瀬戸市保健師（2名）、研究者（2名）
- 2) テーマ/「子宮頸がん」「子宮頸がん検診予防」「国・自治体からの案内」について、どのように感じているか

### 3) 方法

- ① 子宮頸がんに関する学生の知識、認識を参加者で共有
  - ・ Google formを使用して学生に子宮頸がんに関する知識や認識について尋ねた
  - ・ 途中、国・瀬戸市の子宮頸がん検診の案内を普段通りに読むよう依頼し、どのように感じたかを回答してもらった
  - ・ 学生の回答内容をスライドに写し、参加者全員で共有した
- ② 子宮頸がん、国・瀬戸市の検診案内について感じたり、考えたことについて、意見交換した



● 国・瀬戸市の案内を読んでいる様子



● 意見交換の様子（回答をスライドに投影）

### 4) 結果

#### (1) 学生の子宮頸がんについての認識・知識（国・瀬戸市の案内を読む前）

- ・ 若い人になる（なりやすい）がん
- ・ 自分が罹るイメージがない、大丈夫って思う（身近に感じない、自分ごとにならない）
- ・ 「自分たちにHPVワクチン接種を受けるよう呼びかけられている」ことを知っていた

#### (2) 学生の国の子宮頸がん検診案内（リーフレットの一部抜粋・資料1）についての認識

- ・ 国のリーフレットの認知：4人「見たことがない」、1人「みたことがあるがはっきりしない」と回答
- ・ 提示箇所（資料1）：全員が「最後まで読んだ」「普段段から読んでみようという気になる」「ざっと読んでわかりやすかった」と答えた
  - ➡全員が子宮頸がんに関心があった
  - ：一部の学生は説明内容を読み飛ばさしたり、わかりにくさも感じていた
- ・ 読んでわかったこと：ワクチン接種と検診の重要性、子宮頸がんにかかっている人の多さ、子宮頸がんの罹患による影響

学生の声「ワクチン接種での予防と検診での早期発見がとても大切だと再確認することができた」「子宮頸がんになると子宮を失ってしまい、妊娠できなくなってしまうたり、死んでしまう怖い病気だと思った」

- ・ 国の案内を読んだ後では、検診受診意図が上がる傾向がみられた（図1）

No	読む前	読んだ後
1	2. そう思わない	5. そう思う
2	3. たいしてそう思わない	4. ややそう思う
3	3. たいしてそう思わない	4. ややそう思う
4	5. そう思う	5. そう思う
5	5. そう思う	6. 非常にそう思う

● 図1：検診受診意図（国の案内を読む前後）

(3) 瀬戸市の子宮頸がん検診案内 (以下、瀬戸市案内…資料2) についての認識

- ・ 瀬戸市案内の認知：全員「見たことがない」と回答
- ・ 全員が案内表面の無料の文字に目がいき、無料なら検診にしてみようと思ったと話した  
学生の声「無料なのは20歳の1度だけって、だけって書かれていると、行かないとなって」
- ・ 裏面は全員が見たが、フォントが小さい文字は読み飛ばされる傾向があった (3/5人中)
- ・ 4人が検診の検査内容を知りたいと話した
- ・ 瀬戸市案内を読んだ後では、検診受診意図が上がる傾向がみられた (図2)
- ・ 瀬戸市案内を読んだ後でも、「子宮頸がん検診の必要性について」は理解が不十分であった  
学生の声：3人「(検診は) 20歳以上は全員行った方がよい」

別の2人「性経験がある人が行った方がいい」、うち1人「将来子どもが欲しい人が行った方がいい」



● 資料2：瀬戸市の子宮頸がん検診案内

Q. 子宮頸がん検診を2年に一度、欠かさず受けようと思いますか

No	読む前	読んだ後
1	2. そう思わない	5. そう思う
2	3. たいしてそう思わない	4. ややそう思う
3	3. たいしてそう思わない	4. ややそう思う
4	5. そう思う	5. そう思う
5	5. そう思う	6. 非常にそう思う

● 図2：検診受診意図 (瀬戸市案内を読む前後)

(4) 保健師が感じたこと

● 検討会前の認識

保健師は、子宮頸がん検診無料クーポン対象者 (20~21 歳女性：以下、クーポン対象者) は子宮頸がんについて以下の認識をもっているのではないかと感じていた。

- ・ 子宮頸がんによる妊娠や出産への想像ができない (考えられない) のではないか
- ・ 子宮頸がんに罹る可能性を考えていない (自分には関係ない) のではないか

● 学生の意見を聞いた後で、感じたこと

- ・ 国のリーフレット、瀬戸市クーポンともに学生がしっかり読んでくれたこと
- ・ 国のリーフレットに興味を示したことやわかりやすいと感じたこと
- ・ 瀬戸市クーポンの「子宮頸がん検診について」の内容を重要な情報だと感じたこと
- ・ 「20代」「若い」のワードが自分ごとになりにくいこと「無料」は20歳でもメリットを感じること

➡ 無料クーポン対象者の「子宮頸がんへの関心」は自身が考えているよりも高いのではないかと

5) 検討会を大学と行政との協働実施したことによる利点

- ・ 3者 (学生・行政・大学) にメリットがあった
- ・ 保健師が実施事業への評価を行うことができた
- ・ 検討会の実施プロセスにおいて、研究者、保健師の双方が意識していない点に気づき検討できたことで、得られた成果が次の予防対策に役立つものとなった

(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法, 時期, 場所, 回数, 市民への周知方法, 参加人員等を含め, その内容を具体的に記載)

2024年 4月~7月	<b>瀬戸市在住外国籍女性へのヒアリング調査 (③) のデータ解析</b> (主担当: 上杉)
2024年 6月~7月	<b>瀬戸市在住20~21歳の女性へのアンケート調査 (①) のデータ解析</b> (主担当: 瀬瀬)
2024年 7月6日	<b>【学会発表】 在住外国人女性への行政からの健康情報に関するインタビュー調査</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 発表者 / 上杉裕子, 瀬瀬ゆき, 李秀訂, 東千鶴, 鈴木茉央, 藤門弥生, 前田雅貴, 市川誠一</li><li>・ 学会等名 / 日本国際保健医療学会 第38回東日本地方大会</li><li>・ 発表場所 / かでる2・7 (北海道立道民活動センター) (北海道・札幌市)</li></ul>
2024年 7月16日	<b>瀬戸市への成果の還元</b> <p>瀬戸市在住20~21歳の女性への調査 (①), A大学学生への調査 (中間報告) (②), 外国籍女性へのヒアリング調査 (③) の成果について, 瀬戸市健康課の保健師に説明した</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 参加者 / プロジェクトメンバー4名 (瀬戸市健康課保健師2名, 金城学院大学教員2名)</li><li>・ 会場 / 瀬戸市やすらぎ会館</li></ul>
2024年 7月16日	<b>第1回 プロジェクトメンバー打合せ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 参加者 / プロジェクトメンバー4名 (瀬戸市健康課保健師2名, 金城学院大学教員1名)</li><li>・ 会場 / 瀬戸市やすらぎ会館</li><li>・ 内容 / 今年度の取り組みについて (目標, インタビュー構成を検討)</li></ul>
2024年 10月26日	<b>【学会発表】 女子大学生とともにを行う子宮頸がん予防啓発活動の実践</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 発表者: 鈴木茉央, 東千鶴, 李秀訂, 瀬瀬ゆき, 上杉裕子</li><li>・ 学会等名: 第38回日本保健医療行動科学会学術大会</li><li>・ 発表場所: 京都大学医学部人間健康科学科棟 (京都府・京都市)</li></ul>
2024年 10月29日	<b>第2回 プロジェクトメンバー打合せ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 参加者 / プロジェクトメンバー3名 (瀬戸市健康課保健師2名, 金城学院大学教員1名)</li><li>・ 会場 / 瀬戸市やすらぎ会館</li><li>・ 内容 / 検討会の内容について (インタビューの素案, 当日の進め方を検討)</li></ul>
2024年 11月19日	<b>第3回 プロジェクトメンバー打合せ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 参加者 / プロジェクトメンバー3名 (瀬戸市健康課保健師2名, 金城学院大学教員1名)</li><li>・ 会場 / 瀬戸市やすらぎ会館</li><li>・ 内容 / 検討会を含めた今年度の計画について (目標と計画修正, インタビュー案の確定) 保健師へのヒアリング (子宮頸がん検診無料クーポン対象者の子宮頸がんの認識をどう捉えているか)</li></ul>

2024年11月～ 2025年2月	<b>A大学学生への調査 (②) のデータ解析</b> (主担当：瀨瀬)
2024年 12月2日	<b>検討会 (④) の開催</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者／学生5名，プロジェクトメンバー4名 (瀬戸市健康課保健師2名，金城学院大学教員2名)</li> <li>会場／金城学院大学</li> </ul>
2024年 12月	<b>検討会における学生インタビューのデータ解析</b> (主担当：瀨瀬)
2024年 12月18日 (12月26日)	<b>第4回 プロジェクトメンバー打合せ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者／プロジェクトメンバー3名 (瀬戸市健康課保健師2名，金城学院大学教員1名)</li> <li>会場／瀬戸市やすらぎ会館</li> <li>内容／瀬戸市への成果還元 (検討会の結果概要について)  保健師へのヒアリング (学生の認識を知った上で感じたこと，検討会を通して気づいたこと，子宮頸がん予防啓発活動への課題について)  今年度の取り組みについての振り返り</li> </ul> <p>※上記内容について，参加者である保健師1名とは12月26日に電話にて行った</p>

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

**【課題】**

- ・ A大学学生への調査 (②) について，論文化へのスケジュールが遅れているため，すみやかに行う必要がある。
- ・ 検討会に参加した学生は，日程の関係上A大学の看護学部在籍の学生であったため，子宮頸がんへの知識や関心が高い可能性がある。今後は，参加学生をA大学の看護学部以外から募ることを検討する必要がある。
- ・ 調査等から得られた成果は，子宮頸がん検診担当の保健師が次年度の事業に活かす予定である。成果をどのように事業や施策に反映するかについては，行政側に任せている状況である。

**【今後の展望】**

- ・ 来年度は，本プロジェクトには参加しないが，瀬戸市健康課とは情報交換を継続し，学生が国・瀬戸市の検診勧奨等の案内を読み，理解し，検診の必要性をどのように判断したか，引き続き検討していきたい。
- ・ 外国籍女性に向けた個別通知については，課題が残されていることが示唆されたため，今後は関連部署と検討できるよう関係づくりをおこなってきたい。
- ・ 将来的には，若年女性や外国籍女性が必要な情報を得られ，理解し，自身の意思で選択できる環境づくりを整えるために，瀬戸市と子宮頸がん予防に関する施策や事業を協働して立案できるよう働きかけた。

② A大学学生への調査結果

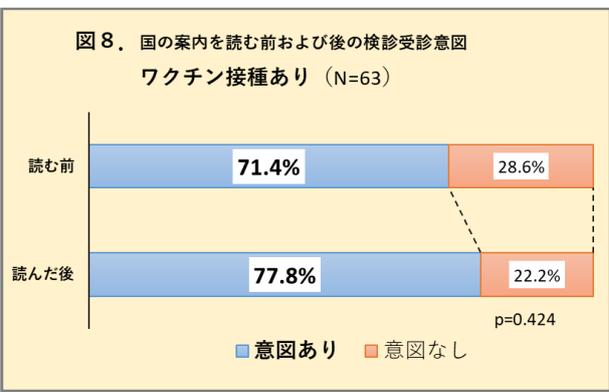
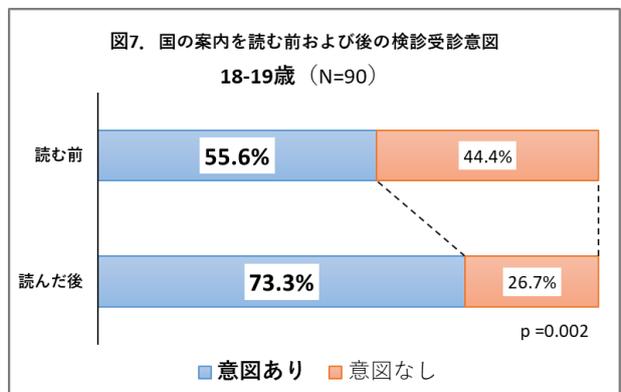
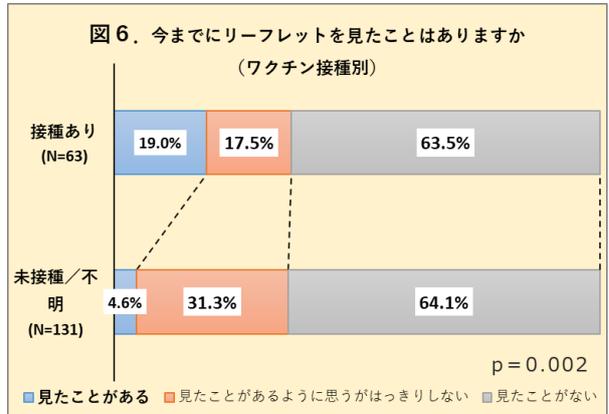
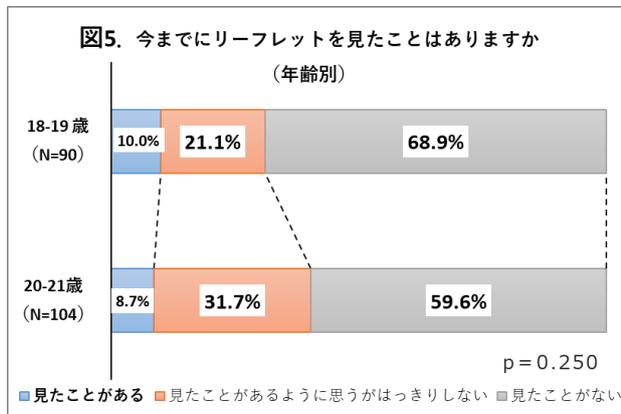
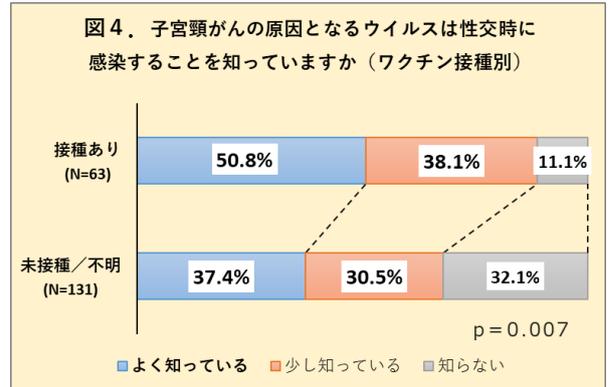
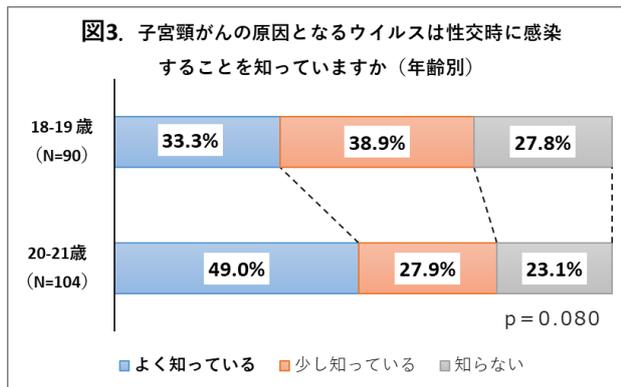
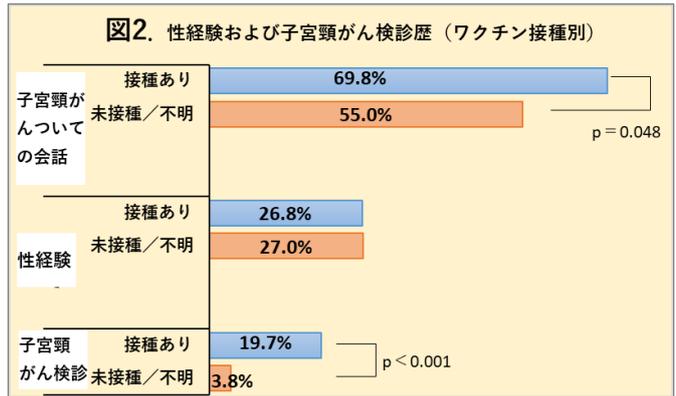
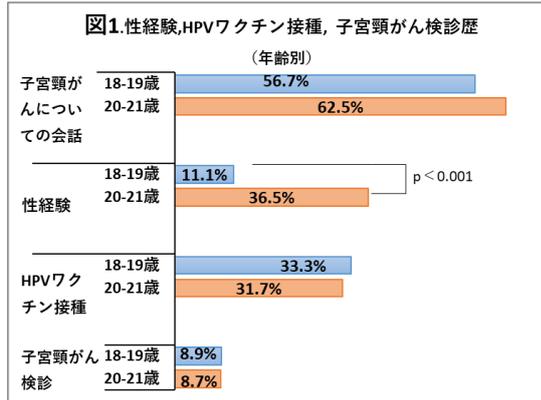


図9. 国の案内を読む前および後の検診受診意図  
20-21歳 (N = 104)

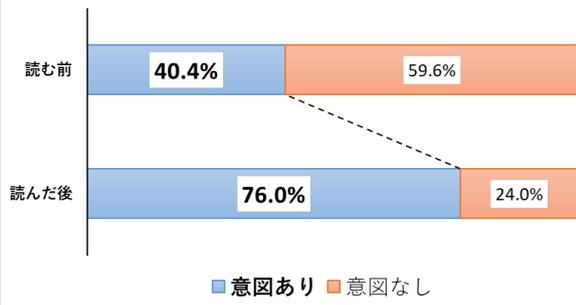


図10. 国の案内を読む前および後の検診受診意図  
ワクチン未接種・接種歴不明 (N=131)

